

鳥海山

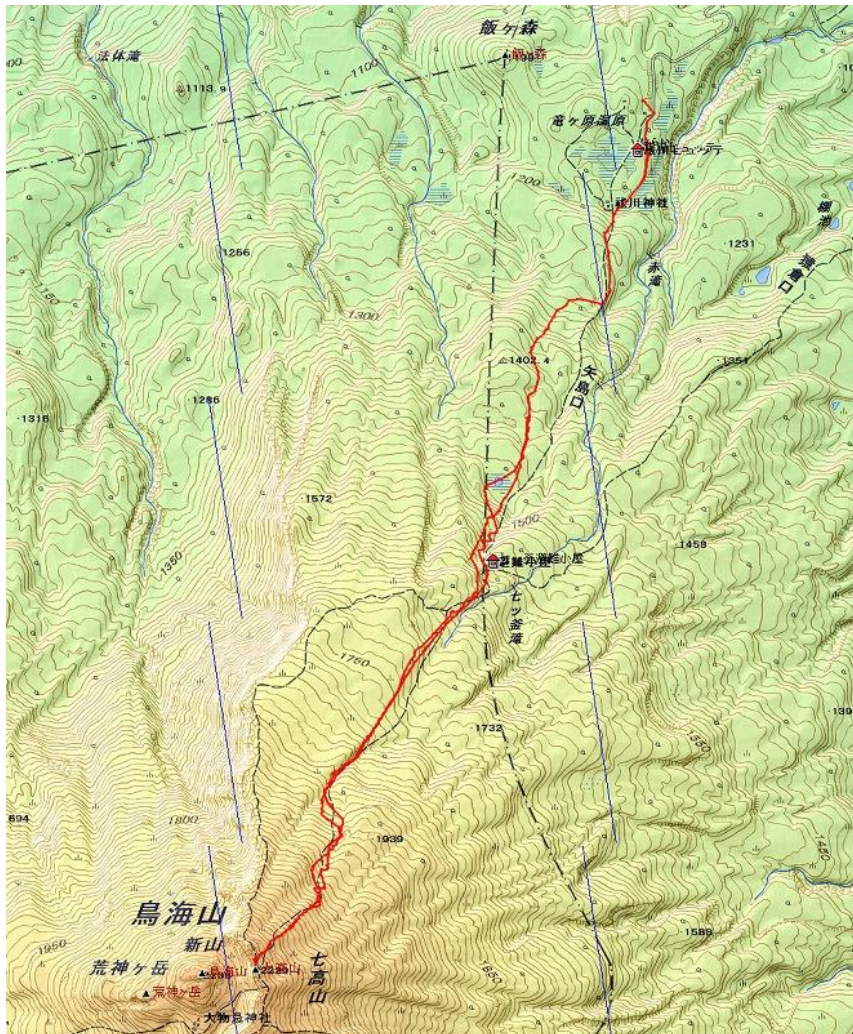
【日程】2015年5月8日

【エリア】鳥海山

【形態】山スキー

【メンバー】Y、O

【報告】O



《ルート／タイム》

5月8日

鳥海山駐車場 (5:00) ~七合目避難小屋付近 (6:40) ~スキーデポ地 2050m付近 (8:30) ~
七高山 (9:00) ~新山往復~下山開始 (10:15) ~スキーデポ地 (10:50) ~鳥海山駐車場 (11:30)

《報告》

東北ツアー2015年の2山目は鳥海山である。月山の報告で書いた通り、3年前は登山基地である祓川まで暴風雨のためたどり着くことすらできなかった。

今回は快晴。前夜の内に祓川駐車場まで進入し、15分ほど車で下ったところにあるフォレスト鳥海にて汗を流す。酒田市で調達した海産物などで夕食をとり、19時にはテント内で就寝。

翌朝3時30分起床。5時には登行開始である。月山で大量のブナの木油がスキー板に張り付き、またシールも三度も張替えを行ったため、スキー板裏にシールが接着してくれない。Yさん苦肉の策で、ダクト用の粘着性の強いテープ、またテーピングテープでスキー板の要所を固定する。これで、なんかとかごまかしながら登ってくればよいのだが。



(左) 祓川に向かって鳥海山を目指す

(右) 祓川から見上げる早朝の鳥海山

積雪量は月山と同じく少な目、といっても駐車場に至るまでの個所でも5mは優に超える雪壁もあり、やはり東北の残雪は根雪になって相当残っていると実感させられる。

シールでの登行は順調に進み、休憩を一度はさみながら七合目避難小屋は素通りし、2050m付近までシールで登り切った。ここから上部は勾配が急になっている。いわゆる舍利坂と呼ばれる斜面だ。安全を期して、ピッケルとアイゼンに履き替え乍ら、七高山へ。

しばらく雪面を上がると、右手に夏道がしっかり露出している。夏道をほどなく歩くと、七高山（一等三角点2230m）へ。武運長久、皇紀二千六百年の石碑など、あきらかに昭和前期に建造されたことがわかる。

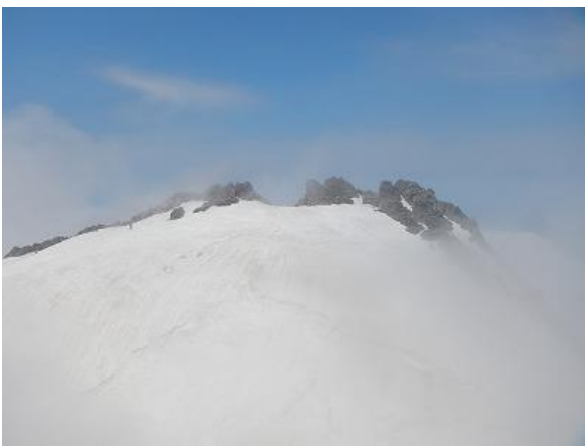


(左) 七高山より登った斜面を見下ろす



(右) 七高山頂上、一等三角点の碑がある

七高山はいわゆる外輪山である。真の最高峰は新山（2236m）で正面に見える内輪山にある。当日は登山前に体調が思わしくなかったため、私はここで満足とする。Yさんのみ新山を往復。自然の造形ともいえるスノーブリッジが外輪山と内輪山をつないでいる。



(左) 内輪山・新山のピーク



(右) 新山に到着したYさんを七高山から撮影

10時15分、頂上での一服を終えて、スキー板デポ地へ。

10時50分、スキー板を滑降モードに履き替え、おまちかねのドロップインだ。

これまでに野伏岳、火打山などいくつかの山スキーを経験してきたが、これほどまでに雄大な斜面滑降ははじめてだった。早朝からの雪質も気温上昇や時間と共に、緩んでおり、危険箇所もあまりない。ゲレンデを滑降する気分为名残惜しい気持ちを残しながら800m近い標高差を30分近くで滑降する。一気に下ったこともあってか、耳の感覚がおかしくなった。

駐車場に戻った後は、再びフォレスト鳥海で汗を流した。そのあと、奈良へ12時間近くのロングドライブを経て、今回の東北遠征は成功のうちに終わった。